

聯△口艦隊解散の位叶

二十閱月の征戦已に往時と過ぎ、我が聯合艦隊は今や其の隊務を終了して茲に解散する事となれり。然れども我等海軍軍人の責務は決して之が為めに軽減せるものにあらず。此の戦後の収果を永遠に全くし、尚益々国運の隆昌を扶持せんには、時の平戦を問はず、先ず外衝に立つべき海軍が常に其の武力を海洋に保全し、一朝緩急に応ずるの覚悟あるを要す。而して武力なるものは艦船兵器等のみにあらずして之を活用する無形の実力にあり。百発百中の一砲能く百発一中の敵砲百門に対抗し得ると覺らば、我等軍人は主として武力を形而上に求めざる可らず。近く我が海軍が勝利を得たる所以も、至尊の靈徳に由る処多しと雖も、抑亦平素の錬磨其の因を成し果を戦後に結びたるものにして若し既往を以て將來を推すときは征戦息むと雖も安じて休憩すべからざるものあるを覺ゆ。惟ふに武人の一生は連綿不断の戦争にして、時の平戦に依り其の責務に軽重あるの理なし。事有れば武力を発揮し、事無ければ之を修養し、終始一貫其の本分を尽くさんのみ。過去の一年有半彼の風濤と戦ひ寒暑に抗し屢々頑敵と対して生死の間に出入せしこと固より容易の業ならざりしも、観ずれば是れ亦長期の一大演習にして之に参加し幾多啓発するを得たる武人の幸福比するに物無く、豈之を征戦の労苦とするに足らんや。苟も武人にして治平に偷安せんか、兵備の外観巍然たるも宛も沙上の樓閣の

如く暴風一過忽ち崩倒するに至らん。洵に戒むべきなり。

昔者神功皇后三韓を征服し給ひし以来韓国は四百余年我が統理の下に在りしも一たび海軍の廢頽するや忽ち之を失ひ、又近世に入り徳川幕府治平に狃れて兵備を懈れば挙国米艦、数隻の応対に苦み、露艦亦千島樺太を覬覦するも之と抗争する能はざるに至れり。翻て之を西史に見るに、十九世紀の初に当りナイル及びトラファルガー等に勝ちたる英国海軍は祖国を泰山の安きに置きたるのみならず、爾來後進相襲て能く其の武力を保有し世運の進歩に後れざりしかば今に至るまで永く其の国利を擁護し国権を伸張するを得たり。蓋し此の如き古今東西の殷鑑は為政の然らしむるものありしと雖も主として武人が治に居て乱を忘れざると否とに基ける自然の結果たらざるは無し。我等戦後の軍人は深く此等の事例に鑑み、既有の錬磨に加ふるに戦役の実験を以てし更に將來の進歩を図りて時勢の發展に後れざるを期せざる可からず。若し夫れ常に聖論を奉体して孜孜奮勵し、実力の満を持して放つべき時節を待たば、庶幾くは以て永遠に護国の大任を全うすることを得ん。神明は唯平素の鍛練に力め戦はずして既に勝てる者に勝利の栄冠を授くると同時に、一勝に満足して治平に安ずる者より直に之を褫ふ。古人曰く勝て兜の緒を締めよと。